



# つなごろう今津

高島市今津地域住民自治協議会だより

第6号

令和5年3月24日発行

## 地域住民自治協議会は…

区・自治会だけでなく、地域で活躍されているさまざまな団体がお互い連携しながら、今津地域を元気にし、活力あるまちづくりを行なうことを目的にしています。

一人ひとりが主役の組織です。

発行 高島市今津地域住民自治協議会  
 事務局 今津町中沼一丁目4番地1  
 今津東コミュニティセンター  
 (今津公民館)  
 TEL 090-4927-3222  
 メール info@imazu-jichikyo.org

## 「琵琶湖周航の歌の会」設立記念

# “琵琶湖周航の歌”物語

今 明かされる 千秋の謎

3月4日、「琵琶湖周航の歌の会」設立記念行事“琵琶湖周航の歌物語”が開かれました。

今津町が発祥の「琵琶湖周航の歌」。旧制三高（現京都大）のボート部員小口太郎が、今津の宿で詞を披露したのが始まりとされていますが、作曲者が分かりませんでした。多くの研究者が挑み続けていましたが、歌が生まれて75年目に判明した“吉田千秋の謎”。偶然が重なり、大きな発見になった物語が語られました。

参加者は、懐かしい顔が映し出された“100周年記念なぞり周航”映画の上映や、JA レーク滋賀女性部コーラス、ブルーコーラス、よし笛を吹こう会の演奏や歌に聞きいってました。

座談会では謎が解き明かされた経過を、コーディネーターに臼坂登世美さん、パネラーに沢田佐次郎さん、落合良平さん、桂田孝司さんが軽快なトークを繰り広げました。参加者は「知らなかったことも聞けて、楽しいひとときでした」と話されていました。



琵琶湖周航の歌の会は、歌の誕生の地としてもう一度、地域ぐるみで今津を盛りあげようと、歌にまつわる組織や団体の関係者の呼びかけで、昨年12月17日設立総会を開き発足しました。

「地域の宝としてより身近に感じてもらい、まちづくりに生かしたい」と山口知之会長。当協議会も協力し、歌を通して活動を進めることにしています。

ただ今、趣旨に賛同いただける方の会員を募集しています。お問い合わせは、今津東コミュニティセンター（今津公民館）内当協議会まで。



話し合いを重ねる役員会(2.18)



会場に美しい歌声が流れました

会員募集中



# 高島高校美術部と連携

通りのネーミング事業で、募集により決定しました「琵琶湖周航通り」「駅前ユリノキ通り」「江若鉄道記念通り」の11ヶ所に通りの看板を設置します。

デザインは、高島高校美術部に依頼。通りのイメージに合ったデザインを考案していただきました。



できあがったデザインに、関係者からは「統一されたいい感じのデザインで、通りのイメージにピッタリ。看板として映える」と声があがりました。

美術部は、油絵やデザインパネルの制作を中心に、自分の思いを表現するよう学んでおられ、いいデザインに仕上げてもらったと関係者一同、大変喜んでいました。

高島高校は、令和2年に創立 100 周年を迎えました。令和3年度に「文理探究科」が新設され、探究活動を専門的におこなう教室「TAKASHIMA ラーニングコモンズ」棟では、ICT 機器を使い生徒が協働して学び、情報を精査し、解決策を考える過程を重視した学習など、さまざまな活動がおこなわれています。

美術部の皆さん  
鈴木友香さん  
木村羽季さん  
海東杏奈さん  
藤井紗那さん  
青井端姫さん  
石倉果歩さん  
柳谷果音さん  
ほか2名

また、昨年の 12 月には「外務省高校講座」が開かれ、外務省の大竹伸平氏は、体験談から「まだ英語を話せない大学生の頃、訪れた海外で現地の人と話をしなければならない状況に、必要に迫られて片言の英語でその場を切り抜けることができた。自分に少しの勇気さえあれば、たいがい何でも出来る」と力説。普段の学習や部活動などの特別活動、友だちとの日々の接し方や会話が考える基礎になり、毎日をしっかり過ごすことが将来のためと話され、生徒からも積極的な意見も出て有意義な時間となったようです。一人ひとりが自ら探究する取り組み、探究活動の追求に当協議会もさまざまな機会に連携できればと考えています。



100 周年記念碑



講座で質問をする生徒



## ごみ出し啓発推進で 今津中学校と連携



ごみ集積所等に、ごみの出し方やマナーを啓発する案内表示などが無いのかという声があり、今津中学校と連携して、子どもや外国からの人にも理解でき、わかりやすい表示にすることにし、同校美術部に協力をお願いしました。

ひらがな表記とイラストで13種類の案内ができあがり、各区・自治会に4月、CD でお渡しすることになりました。ご活用ください。

今津中学校は、長く地域と連携した協働活動が活発で、今年度も琵琶湖岸の外来特定植物の駆除など、ともに連携して実施しました。今後も多方面での連携をすすめていきます。

## 今津地域まちづくり計画 策定プロジェクトチーム

### 今津の「いいところ」探しから



いよいよ本格的に議論が始まりました。まずは、今津にある誇れる資源は何か？地元にいることで見えるものや見えないものなど、委員は3グループに別れ、地図を広げての意見交換からスタートしました。

「今津のいいところ探し」。現在のまちづくり計画（2021-2023）には、当協議会設立準備会のなかでさまざまな課題の洗いだしがおこなわれ、「地域資源の魅力が若い世代に伝わっていない」「人口減や少子高齢化と言いつつも、地域活動がなんとか維持されていて危機感が薄い」などの意見がだされていました。

より深刻化している課題や新たな課題もありますが、一方で、今注目されている琵琶湖や歴史、自然豊かな地域資源の魅力を生かすことは、これからのまちづくりに欠かせないものです。そこで、「いいところ」をどう生かすのか、からのスタートです。

今津には使い切れていない魅力がいっぱいあるのではないかと「町があり、琵琶湖に近いJR駅があり、山や水、物語のある歴史、誇れる産物など数多くのキーワードがあげられました。外から今津を見た場合、何が魅力と感じられるのか、どのような町になってほしいのかなど、議論がすすんでいます。

北川渉リーダーは「地に足をつけ、ひと事が自分事となるような計画を、みんなで考えていきたい」と話します。これからさまざまな側面や角度から検討を進めます。皆様からのご意見もお寄せください。



北川渉リーダー

## 自治協って なに!? 協議会の 体制は?

住民自治協議会には、地域に関係するさまざまな団体等が参加しています。それぞれ、地域のなかでめざす方向や地域課題に応じた体制で活動されています。協議会は、地域の活性化や課題解決のために取り組む内容に応じて、団体等の有機的な結びつきのなかで取り組んでいこうとするものです。

その指標となるものが「今津地域まちづくり計画」です。地域が中長期的にめざす姿を目標に、部会を構成し、毎年度具体的な取り組みや予算を協議し、関係する地域の団体や住民の協力によ

て事業を実施します。

団体等では担い手が増えないとかいろいろな課題を抱えておられます。協議会では、たとえば防災や福祉など、団体等の分野を超えて共通した目標に向かって連携することもでき、住民とともに協力して課題解決に結びつくような活動に取り組みます。

そのために、活動部会や役員会など、市や支援団体などと連携・協力し、体制も確立していくこととなります。



# 知ってる 街ネタ

## どんどんと燃えろ左義長♪

今津北小学校の伝統行事“左義長”が1月13日、児童や「なないろこども園」の園児

が見守るなかおこなわれました。

近隣の区長や地域の方、学校関係者が集まり、代表の児童が今年目標などをつぎつぎ発表したのち、6年生応援団長3人が点火。左義長は、書き初めをいっしょに燃やして高くあがると字が上達すると言われ、自分たちの作品が、炎とともに高く舞い上がるかと心配そうに見ていました。青竹からは火炎で爆竹音が大きくこだまし、驚きながらも燃え上がるのを見守っていました。

「どんどんと燃えろ左義長!」とかけ声が大きく校舎に響いていました。



「はなまる広場」は平成 29 年から活動を開始した学校支援ボランティアです。

校内の見回りや配布物の仕分けからはじまった活動は、学校の要望に応える形で活動範囲が広がり、学校備品の整備・修理などの「環境整備」、学習支援や授業のサポートなどの「直接支援」、長休み・昼休みなどの見守りや遊びなどの「交流活動」など、日常的な学校活動を幅広く手伝っておられます。コロナ禍で制限はあったものの、できることは変わらずサポートされていて「地域の皆さんにも、お手伝いいただけるとありがたいです」と話されています。活動についてのお問い合わせは今津東小学校にお願いします。

## はなまる広場



いまづ  
まちなか  
探訪記

## 太陽信仰

## レイライン(御来光の道)

レイラインとは、富士山と出雲大社を結ぶ北緯 35 度 22 分の直線。今津町北部はそのラインに位置し、春分と秋分の日には太陽が真東からのぼり、ちょうど伊吹山の山頂と竹生島を結びます。

ライン上には日置前(ひおきまえ)という地名があり、まさに太陽を置く場所と言われています。レイラインは、古代から太陽を神として崇拝していたことに起因するのかもしれませんが。

琵琶湖と山頂からの日の出を入れた幻想的な光景が、フォトスポットになっていて、3月21日の前後にも大勢の方がカメラを構えていました。次のチャンスは、秋分の日です。お見逃しなく。



## 編集後記

令和4年度の最後の発行となりました。コロナ禍にあって元通りにはなりません、いろいろな活動も復活されてきています。大きな影響をおよぼしたコロナウィルスですが、あたり前にできたことから新たな変化も受け入れて対応していくことが大事だと思っています。自治協活動も、5年度計画で新たなステージに向かおうとしています。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いたします。(K)

